

石塚 京子 内容の要旨

氏 名	石塚 京子
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	乙第 1271 号
学位授与の日付	平成 26 年 12 月 19 日
学位授与の要件	学位規則第 3 条第 1 項第 4 号に該当

学位申請論文タイトル及び掲載誌**Topographic Anatomy of the Posterior Ramus of Thoracic Spinal Nerve and Surrounding Structures**

胸神経後枝およびその周辺構造の局所解剖

Spine, 2012 Jun 15;37(14):E817-22 2012 年 6 月 15 日掲載

学位審査委員（主査）教授 野村 恭一

（副査）教授 高橋 啓介、教授 張 漢秀、教授 佐々木 惇

論文内容の要旨

日常臨床において背部痛はしばしば経験される。この疼痛の原因を究明するために、脊髄神経後枝の局所解剖が検討されてきた。従来、頸神経および腰神経に対しては詳細な研究が報告されているが、胸神経に対する報告は比較的少なく、特に絞扼性神経障害の原因となりうる絞扼点についての研究、および胸椎椎間関節の神経支配に関する詳細な報告はない。本研究においては、解剖実習に供された屍体 10 体を用い、各体に付き第 1 胸椎から第 12 胸椎まで両側の胸神経後枝の走行を調査した。さらに各胸神経について脊髄神経節から末梢に至るまで連続的に観察した。

胸神経後枝の最初の分枝は下行枝であった。後枝は下行枝を分枝した後、内側枝と外側枝に分かれる。上位・中位胸椎では、内側枝は筋枝を分枝した後、内側皮枝となる。下位胸椎においては、内側皮枝は存在しなかった。一方、外側枝は中位・下位胸椎では筋枝を分枝した後、外側皮枝となるが、上位胸椎に外側皮枝は存在しなかった。

さらに後枝の走行経路において、胸椎領域における背部痛の原因と成り得る部位を同定した。後枝およびその分枝の絞扼部位と成り得る部位は以下の 4 部位が考えられた。1) narrow path: 椎弓外側部の骨と靭帯によって形成されるトンネルを後枝および下行枝が走行する部位、2) Turning point: 内側枝が多裂筋の外側を急に角度を変えて走行する部位、3) Fibrous fixation: 内側皮枝が背部の筋を貫通する際、筋膜や筋の腱性部分に固定されている部位、4) Direct compression: 内側皮枝が棘突起先端に分枝している部位であった。また、胸椎の椎間関節を支配する関節枝を同定した。関節枝は下行枝から分枝しており、1 下行枝から 1 椎間関節枝を同定出来たが、下行枝の約半数は椎間関節に分枝していなかった。

本研究は背部痛の治療における基礎的資料を提供するものである。また胸椎領域の手術的治療における解剖学的情報の提供にも寄与するものと考ええる。